

## 小田原市行政改革推進委員会 骨子案に対する意見について

## 1 これまでの行政改革の取組

- ・これまで行政内部の改革に取り組み、効果を上げてきた。これ以上やると市の職員が疲弊するのではないかと。改革できる場所があればいいが、それがない限り難しい。サービスを止める、下げるだけの改革はやめたほうがいい。(木村委員)
- ・質を測るのは非常に難しい。質の改革で示している目標は、プロセス目標というか、アクションの目標に近いところがある。これをやれば質が上がると言っているように見えるが、これをやったら一体何が上がるのか、今一つ見えないところがある。(西前委員)
- ・令和元年度の間評価で、14.5 億円に対する達成率が 44%ということなので、令和3年にはほぼ達成されているのかと思う。全体的によく考えられている。(池田委員)

## 2 今後の行政改革について

## (1) 基本理念について

- ・公共建築物の長期保全費用のシミュレーションでは財源不足、それに加え人口減少とあり、財政面で悪いイメージが出ている。「世界が憧れるまち“小田原”」の実現に向け、住みたい、住んでいていいと思えるよう実行に移していくと思うが、小田原市の財政状況や行財政運営の課題から、財政的に大丈夫なのか、不安に感じた。今後を見据えると人口減という課題もあるが、ここ最近では、転入超過が続いている。そういった中で、小田原に安心して住めるような環境、市民が満足できるよう、しっかりと見える形にし、財源をクリアしてほしい。(丸山委員)

## (2) 視点及び重点推進項目について

3つの視点 (参考資料の3(2))	重点推進項目 (参考資料の3(7))等	委員意見整理
①効率的・効果的な行財政運営		
事業見直しの徹底	事業見直しの仕組みの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の目標設定を工夫すると、中身の改善等につながりやすい。事業を実施する所管において、何を目標にしているのか、成果を見据え、アウトカム指標を設定することで、作業内容も変わってくる。入念に考えて指標を設定することが重要だと思う。最初、その設定方法が分からないと思うので、そこは誰かが入らないと、なかなか変わっていかない。(西前委員)</li> <li>・評価について、達成率が低い事務事業ほど課題の記載がない。達成率が 70%以下は課題を記載するようなルールにしてはいいか。(西前委員)</li> <li>・事務事業ごと目標を設定しているが、その上には分野ごとに達成したい目標があると思う。最終的には、それらの整合を図り、不要な事業を見極められるような評価の仕組みにすると、事</li> </ul>

		<p>業の統合や廃止もしやすい。(西前委員)</p> <p>・事務事業評価について、第三者による評価を議会の前に行うことが大事であると思う。議会に対しても正当性が担保されるので、今後の課題として考えていただきたい。(牛山委員長)</p>
業務の効率化・生産性の向上	働き方改革	<p>・事務効率は最低限見直しをした方がいい部分ではあるが、それがすぐ財政に響くという問題でもない。やり方を変えることでの効率化・生産性の向上は一人ひとりが改善していく中でプラスが出る。(丸山委員)</p> <p>・業務改善ツール等 ICT 技術の活用など専門性が求められる中で、専門にできる方がきちんと配置されるのか。逆に言うと、長時間労働が増えるのではないかと。言っていることは、当然やるべきことだと思うが、特定の個人に負荷がかからないように全体のバランスを考えていただきたい。(丸山委員)</p> <p>・風土はなかなか変わるものではないと思う。実際に掘り下げるとかなり厳しく、結果的に職員が本当に働きやすいかということが重要ではないか。(丸山委員)</p> <p>・テレワークを始めている会社が増えるなど、世の中はデジタル化に向けて動いている。テレワークの推進や、職員がいきいきとした働き方をする等、市役所が企業の模範となるような働く環境を作っていただきたい。(田中委員)</p> <p>・テレワーク中心の働き方になると、成果管理のしづらさや、メンタルケアの問題が増える等の課題が出てくる。(西前委員)</p> <p>・効率化を重視することが多いが、職員がいきいきと働ける等、働き甲斐の視点が見えてくると、受け取る側としても、ポジティブな受け止めになり良いのではないかと。(西前委員)</p> <p>・行政改革だが、働き甲斐等の視点にも留意するというような書き方があっても良いと思う。(牛山委員長)</p>
効率的な組織体制の構築		<p>・新しいことをやる時は、経験値がなく、組織側にケイパビリティがない。デジタル化といって、デジタル化をすぐに進められる人がどれだけいるのか。公民連携もあり方が変わる中で、市役所内にそれを担える人材がいるかが課題となる。「生産性の向上」と両立できるよう、進めていく必要がある。(西前委員)</p>

3つの視点 (参考資料の3(2))	重点推進項目 (参考資料の3(7))等	委員意見整理
②行政サービスの質の向上		<p>・「公民連携の推進」と「デジタル技術の活用」が①の視点ではなく②の視点に入っているところが重要だと思っている。もちろん効率化にもつなげるが、効率化のためだけにやるのではなく、住民サービスが向上するための視点というのをしっかりと入れている。(牛山委員長)</p>
公民連携の推進	公民連携の推進	<p>・民間との協定について、住民にはほとんど知られていない。「こういう形で地域に貢献できるんですよ」ときちんと広報し、締結して終わりではなく、実効性のあるものにしてほしい。協定に限らず、行政主導で進めるのではなく、市民にしっかりと周知し、互いに意見を言い合い、一つのものを作り上げていかなければ、地域や住民はついてこない。(木村委員)</p> <p>・民間と協定を締結したことで、どのような効果があったのかフィードバックされていない。 令和3年度に協定を締結し、令和4年度は新たにどのようなことを考えているのか、明確にしておかないと、締結するだけで、結果がついてこなくなってしまう。(丸山委員)</p> <p>・公民連携は重点推進項目にあがっているが、具体的に何を狙っているかが見えづらい。定量的な成果や狙いについて、単年度で示しづらいところがあるので、中長期的に示すというの必要ではないか。市が狙っているところを示した方が民間は受けやすく、ただ門戸を開くというよりは、狙いを定めて、民がそれを取りに行き、成果を含めてモニタリングしていくという仕組みをつくった方が良いと思う。(西前委員)</p>
デジタル技術の活用	デジタル化の推進	<p>・電子化に向けた方針は、具体の成果をどう示していくかが大事である。掛け声に踊らないよう、具体的な取組を進める必要がある。(石井副委員長)</p> <p>・規制改革のような観点があってもいいかもしれない。(牛山委員長)</p> <p>・行政改革のために、デジタル化をどんどん進めればよいという内容では、少し説明が不足するので、高齢者へのフォローや情報セキュリティについての言及があってもいいのではないと思う。(牛山委員長・石井副委員長)</p> <p>・マイナンバー制度の活用については、何らかの考え方を示しておく必要がある。 大きく夢を掲げ、それに向けて邁進していくのか、あるいは足回りのところを少しずつ進めていく中で徐々に電子化を進めていくのか、見ている世界の乖離がないようにしていただきたい。どのようにデジタル化を進めていくのか、考え方の整理が必要だと感じた。(石井副委員長)</p>

3つの視点 (参考資料の3(2))	重点推進項目 (参考資料の3(7))等	委員意見整理
③持続可能な財政基盤の確立		<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な財政基盤の確立とあるが、補助金の見直しや受益者負担の適正化だけでは、財政基盤の強化には程遠い。今後の検討でいいが、ふるさと納税やクラウドファンディング、民間との連携の強化などで見込める財政効果などを考えた方がいい。(牛山委員長)</li> <li>・ふるさと納税に寄附していただけることは、市民としても誇りに思う。ふるさと納税していただけるような魅力ある小田原になってほしい。(田中委員)</li> <li>・クラウドファンディングについて、民間との連携で、行政に役立つものをアイデアとして民間に提案していただき、それをクラウドファンディングにして、達成したらそのアイデアを行政に提供できるというような形ができると良いのでは。(田中委員)</li> </ul>
歳入確保の取組	市有財産の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市が持つ財産を活用した方がいい。業務の見直しはすぐにできるものではなく、「デジタル化」についても、できる人がいないという人の課題がある。見える形のものでうまく活用していただきたい。(丸山委員)</li> <li>・公共施設の老朽化では、特に小・中学校が建て替え時期に来ており、最終的に統廃合といった考え方が出てくると思う。統廃合すると、土地が空き、その土地の有効活用も考えていかななくてはならない。その辺を踏まえながら考えてはどうか。(木村委員)</li> </ul>
	受益者負担の適正化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の使用料について、利用者が少なくなったら下げる、多くなったら上げる等、柔軟に対応しても良いのではないかと。(田中委員)</li> <li>・駐車場の有料化は最近多くなってきた。有料化するのであれば、施設の状況などを踏まえて検討していただきたい。(田中委員)</li> <li>・駐車場の有料化は、事務手続きや会議等で来庁したのであれば、一定の時間は無料にする等、運用方法を考えていけばいい。(牛山委員長)</li> <li>・市立病院の駐車場が有料化になったが、必要なものは議会にあげ、実行していくべきである。今後も企画部が先導し進めていく必要がある。(木村委員)</li> </ul>
歳出抑制の取組	補助金・負担金の適正化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政改革となると補助金をカットされてしまうのではとすぐ頭に浮かぶ。(木村委員)</li> </ul>

(3) その他

計画期間・推進体制等	委員意見整理
計画期間、目標設定	・前半と後半にわけ目標額を設定し、中間年度での改定時にはプラスマイナス含め、しっかりと精査しながらやっていただきたい。(丸山委員) ・中間年度で改定となっているが、コロナの状況もあるため、「臨機応変」という言葉を入れてはいかがか。(丸山委員)
推進体制、進行管理	・行財政改善推進委員会という行政内部の組織だけで進めるということは、行政だけでやっているように見える。第三者目線を入れることを考えたらいかがか。(牛山委員長)